

校長室便り「令2⑬」

2020, 8, 25

文責：松崎 伯文

《2学期のスタートさせるに当たって》

2学期に特に力を入れたいこととその理由をまとめてみました。

1 **学校運営ビジョン**の中から

①「正しい判断ができる生徒」

授業、学校行事、部活動・・・学校の教育課程全体を通して、生徒「正しい判断ができる力」を身に付けさせたい。

②「自己有用感をもてる生徒」 ←2学期の重点事項

「自己有用感」を実感できている生徒は、心にゆとりができ多少の失敗を恐れなくなる。よって、これも授業や行事、部活動の中で一人一人に応じた「自己有用感」が持てるよう仕掛けをしてほしい。

③「聞く態度」

「聞く姿勢」が徹底できれるよう習慣化すれば、授業にメリハリを付けることができる。そのためには教師も生徒の話をきちんと最後まで聞くようにしてほしい。

以上の指導の成果として

自然に「ありがとう」と言える生徒、素直に「ごめんなさい」が言える生徒を育てる。

2学期は、1学期の指導してきた成果の上に、特に②の自己有用感を生徒に持たせたい

1学期の生徒の様子を見ると、普段は気づきませんが、3ヶ月、半年、1年前と比べてみると、確実に成長していることがうかがえます。

私の経験上、「人は認めてもらえたり、僅かな自信でも持てるようになってきたりすると変わり始める」と思っています。ただし、それは「過信」ではなく「根拠に裏付けられた自信」です。「まんざらダメばかりでないかもしれない自分」程度の気づきでさえそれがあれば、その後その子を大きく変えました。逆に言うと自信がもてないから過信や虚勢を張ったりしていたのだとも思います。

この過信でない「自信」をいかにつけるかが私たち教師の腕の見せ所だと考えます。具体的には、10のうち1つでも、否100のうち1程度でさえも「自分もできるかもしれないという実感」や自分が誰かのために役に立っているという「自己有用感」が「自信」につながるきっかけになります。

玉川中の生徒が中体連等で惜しいところで負けてしまうというのは、この自信が薄いからかもしれません。

この2学期は、これらを導きやすい時期です。しかし一方でコロナ対策、暑さ対策など安全・安心して学べる環境作りにも万全を期さなければなりません、1つ1つ皆で知恵を振り絞り合って丁寧に対処しながら生徒の成長を育みたいととを考えます。これまでと同じことはできないかもしれませんが、価値のある行事や日常を送らせることはできると考えます。

2 **2学期の取組とその趣旨について**

- ①若葉祭→金曜日に合唱コンクールをメインとして実施の方向で検討
- ②教育相談→生徒理解と心のケアの充実のため
- ③数学の習熟度別学習→「やればできる」実感をまず数学から
- ④修学旅行、遠足、校外学習→代替えも含め検討9月上旬には判断